

京 都

京都府支局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2
府庁西別館内
075・441・3660



広報・研修委員長の杉本邦子さん（右）と
同委員の山本千恵子さん

精華町農業委員会は、本年度、年2回発行している広報紙を全面リニューアルした。
愛称は、これまでの「せいか」から「ホウジ」

50代後半主婦に魅力発信 精華町農委広報紙を刷新

「ヨウ」に変更。豊穰や豊饒、芳情などの発展的な意味を含ませている。ターゲットは50代後半の主婦に設定。定年退職を控えるサラリーマンに

「今後、地域計画を含め、町の農業について時を得た内容載せていきたい」と語る杉本邦子広報・研修委員長。ターゲット層に響く紙面を届けようと、次号に向けた編集会議がすでに始まっている。
(精華町農業委員会)

大きな窓からのやさしい日差しと薪ストーブの暖かな空気に包まれた作業場「野庵」。



女性が働きやすい作業場「野庵」

労働環境 + 働き方を改革 有機農業の担い手を育成

ヴィレッジトラストつくだ農園

京都市 渡辺 雄人さん 民さん

(渡辺雄人社長)が昨春に整備した作業場では、11人の従業員が笑顔で働いている＝写真。

作業場と事務室の間は透明な可動式ガラス戸で、互いに状況を一目で確認できる。車を横付けして野菜の円滑な搬入搬出が可能で、女性従業員に配慮したトイレ・シャ

ワ一設備も整っている。現在、1・5畝でナス、エビイモ、金時人参など年間70種類の野菜を栽培する同社を創業した渡辺さん夫妻が大原で有機農業を始めたのは18年前。当時は同志社大学の大学院生で、大学が大原キャンパスとして借りていた

家屋と農地を拠点に農業を開始し、京都市内で有機農業を実践する師匠のもとで研鑽しながら2人で農園の礎を築いた。3年目には有機JAS認証を取得。その後、生産を順調に拡大し、規格外品を使った柴漬けやジャムなどの加工販売にも進出したが、仕事は増える一方で、夫婦2人の体制は限界にきていた。そこで、民さんの第2子出産を契機に働き方を改革し、従業員を雇用。週休2日で、午前9時半から午後5時までの勤務体制に移行した。女性従業員が多く、育

京都府農林水産技術センター ほつとニエース 畜産センター

ない原因となっていた。畜産センターでは、これらの課題を解決するため、畜産たい肥と化学肥料を混合して成形するペレット肥料に着目。鶏糞主体の「えびいも用」と牛糞主体の「紫ずきん(黒大豆枝豆)用」の肥料を試作して、試験栽培に取り組んだ。

えびいも用・紫ずきん用 ペレット肥料を開発

や臭気が近隣住民から敬遠されるなどの課題があり、使用する農家が増えない畜産たい肥を使う場合と比較して施肥の作業時間短縮につながるなど、省力化に効果があった。



えびいも専用のペレット肥料(試作品)

現場の想い

◆地域計画の策定作業が大詰めを迎える中、不安を感じることがある。すでに公表された他府県の事例を見ると、内容が絵花的・抽象的で具体的に欠ける計画が目立つ。

「地域計画」見直しに必要な視点 「儲かる農業」の具体策を描こう

地域農業の将来ビジョンであるにもかかわらず、主語が不明確で、誰がどんな取り組みをするのかよく分からないのだ。◆一昨年4月から今年3月



度から本来の意味の「地域の具体的な計画」が始動する必要がある。地域ごとの条件や環境を分析し、儲かる農業を実現する戦略を考えて、誰が何をどのように生産・販売していく将来方向を描く。中山間の条件不利地域でも「儲かる農業」に

農家組合推薦の女性委員 3人が地域で活動

向日市

品し時にお客さんから「美味しー」と声をかけてもらうと、とても励みになります。

女性でも楽しく取り組むことができる農業の魅力を伝え、農業に関わる方を増やす活動に取り組みたいと思います。
(向日市農業委員会・厳嶋操委員)

女性委員が “つないで発信”

向日市では、一昨年の誕生し、各地区で元気に農業委員改選の際、地元活動しています。本年度は、地域計画の集女、上植野農家組合、目標地図の検討など、農推薦で3人の女性委員が、業委員会が中心となり、

農deみら

八幡市 西村和晃さん



ハウスでキュウリやミニトマトなどを栽培する西村さん

キュウリで将来を展望

1・3畝でキュウリ、トマト、ネギなどを両親と経営する西村和晃さん(37)。少ない面積で収益につながるキュウリに魅力を感じ、特に力を入れている。約15年前に就農した西村さんは、2人めの息子が7年前に生まれたことや、その翌年

将来に備えて農業者年金にも加入。「将来、息子たちが継承したくなるような、収入も楽しさもある農業にしていきたい」と明るく語った。
(八幡市農業委員会)